



記入日	2019 年 1 月 7 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	18 (他校との連携①)
タイトル	生徒の活躍の場が広がる！ツールとしての「魔法の携帯トイレ」活用法 (日本赤十字社東京都支部 青少年赤十字メンバー連絡協議会でのワークショップ)
実践担当者のお名前	京・市橋 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満 (資料印刷) ※材料等は赤十字が準備
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 6 月 22 日 14 時 30 分～16 時 30 分
実践の所要時間	90 分
実践の運営側で動いた人の人数	18 人：本校生徒(6)・青少年赤十字役員の生徒(12)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 90 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都新宿区
実践を行った具体的な場所	日本赤十字社東京都支部大会議室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	携帯トイレの材料, 東北福祉大学考案の「エコノミークラス症候群予防体操 (愛称：さんあい体操)」のプリント https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf

達成目標	【目的・目標】 都内の青少年赤十字(JRC)加盟校の生徒が集まり, 携帯トイレを校内や地域で普及するために作り方をマスターする。災害時のトイレ問題の重要性を知り, 中高生視点でどのように地域に普及するか, アイディアを出し合う。これらの活動を通じ, 同世代の防災に取り組む仲間と出会い, それぞれの地域での防災活動へのモチベーションを高める。 【背景・経緯】 本校考案の「魔法の携帯トイレ作り」が, 日本赤十字社東京都支部の防災教育の取り組みとして採用され, 2018 年度から 3 か年, 都内の青少年赤十字加盟校, 28 の区・市の赤十字ボランティアが地域での普及活動に取り組んでいる。
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	（１）当日のワークショップについて ▼プログラム	
	令和元年度 東京都青少年赤十字メンバー連絡協議会 防災減災ワークショップ「災害時のトイレ問題」 災害時のトイレ問題を知り、携帯トイレの作成を体験しよう！ ① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表 ② ワークショップ実施 （話し合い→携帯トイレの作成→話し合い→発表！） ③ 終了・まとめ	
	① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表 ・6人の生徒がプレゼンテーションを行った。 ・2人1チームに分かれ、3つのテーマをそれぞれ分担した。 【プレゼンテーションテーマ】 ○「災害時のトイレ問題とは？」 ○「エコノミークラス症候群って何？」 ○「本校の被災地ボランティア研修と防災活動」	
 		
▲「さんあん体操」をレクチャー ※2019年3月の被災地ボランティア研修で、東北福祉大学の提供する減災・防災教育プログラムを受けた。その中で習った、「エコノミークラス症候群予防体操（愛称：さんあい体操）」を本校生徒の指導で、全員で体験した。		



配布
プリント

・他校の J R C ンバーから、文化祭で発表した「災害時のトイレ問題」の取り組みの報告も行われた。

(2) 配布資料

**Mission!! 「こころとからだを守るトイレ」をつくるために
災害時、例えば「天気の悪い夜」に
外にあるこのトイレ、行けますか？**



Q 1. できるだけ快適にするために、
どのようなものがあったら良いと思いますか？

Q 2. 災害は突然起こります。その結果、多くの人が集まった避難所
では、最初はルールもなくトイレを使ってしまい、あっという間に
汚れて汚物の山、ということも発生！
あらかじめ、どんなルールを広めておいて、守ってもらえば、きち
んとトイレを運用できるでしょうか。（「当たり前」のことも大事な
ルールです。）

Q 3. トイレに行く回数を減らすために、水分を
控えて体調を崩す人もいました。外に設置され
たトイレでは、残念ながら、危険なことや不便
なことも色々ありました。どのようなルールを
決めておけば、安心・安全に災害時にトイレを
使えるでしょうか。



▼熊本地震の際に、家族がエコノミークラス症候群になった方がイン
タビューで「知らなかった。行政に駐車場を回って知らせてほしかった。」と答えているのを目にした。それ以来、「あらかじめ知らせる」
「声がけをする」ことを生徒が活躍できる防災活動の1つだと考えて、以下のようなワークを作成した。



配布
プリント

Mission!! 「命を守る声がけをしよう」

災害が発生し、あなたの目の前に、トイレに行きたくないために水分を控えて元気のない人がいます。このままだと命の危険があります。

「水分をしっかりとって、トイレに行く勇気」が出るような声がけをしましょう！ 相手が「やっぱりしっかり水分をとろう！」と思えるようなセリフを考えてください。



得られた成果

- ・当日は、中学生 22 人・高校生 66 人・指導者 5 人の参加があり、充実した研修になった。同世代の他校の生徒との出会いを通じて、大いに刺激を受けた。
- ・「魔法の携帯トイレ」の作成方法・指導方法のコツをそれぞれが身に着けた。JRC メンバーが文化祭で来場者に教えたり、赤十字の地域奉仕団の方が中高生に教えたりと、各地で活動が展開されている。
- ・本校の生徒にとっては、これまで取り組んでいた生徒達の達成感に繋がると同時に、低学年にとっては活動と災害時のトイレ問題のイメージアップに繋がっている。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能

かなり

思考力・判断力・表現力

大いに

学びに向かう力・人間性

大いに

課題・苦労・工夫

工夫

苦労

- ・防災活動を始めたばかりの 2014 年頃、教員が「本校の生徒に災害時のトイレ問題に関心を持ってほしい」と思いついたときには、まったく予想もしていなかった活動の広がりが生まれている。
- ・この動きから教員が学んだことは、防災活動に「生徒の思いとアイディア」が加わると、大人が予想しているよりも、遥かに活動が広がることと、「生徒の思い」が社会を動かす可能性を持つということである。



工夫	・研修会では、単に「携帯トイレの作り方を学ぶ」だけではなく、どうやって普及させるかのアイデアを考えたり、エコノミークラス症候群を予防する体操を練習したり、様々な視点からメニューを考えた。
課題	・暗くなりがち、避けられがちな災害時のトイレ問題について、明るい雰囲気の中で考えることで、活動のイメージアップにもなった。 ・携帯トイレに使っている吸水ポリマーシートの製造が既に終了しているため、代替の材料が必要な状況。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	日本赤十字社東京都支部事業部 青少年・ボランティア課青少年係
関係者の説明	青少年赤十字は、学校教育を通して、子どもたちに“いのちの大切さ”を伝えています。東京都支部は、学校現場での子どもたちの活動充実のために、さまざまな支援・プログラム提供をしています。世界 192 の赤十字姉妹社や国内約 14,400 校に同じ理想を掲げる青少年メンバーがいます。（東京都支部 HP より）
関係者の連絡先	TEL. 03-5273-6741（代表）



記入日	2019 年 1 月 8 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	19 (他校との連携②)
タイトル	いつか来るその日のために。生徒が提案する防災交流会 —校舎見取り図をもとに避難所を想像しよう (宮城県亘理町立荒浜中学校との 16 回目の交流会)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満 (文房具)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 7 月 24 日 10 時分～12 時 00 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	20 人：生徒(5)・荒浜中教員(10)・本校教員(5)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	75 人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県亘理郡亘理町
実践を行った具体的な場所	亘理町立荒浜中学校 体育館および校舎
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	荒浜中学校の校舎見取り図 (拡大コピー), 付箋

達成目標	【目的・目標】 ・ 2 校の交流会の一環として、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力を活かして、災害や防災について考えることにポジティブな気持ちを持つ」ことを目的とする防災ワークショップを開催する。 ・ 荒浜中学校の校舎見取り図を使って、「次に大きな災害が起きて、地域の人たちの避難所になったときにどのように校舎を活用するか」について、両校の生徒でアイデアを出し合う。 【背景・経緯】 ・ 宮城県亘理町立荒浜中学校と、2012 年 3 月の第 1 回被災地ボランティア研修から欠かさずに交流会を続けている。近年の交流会では、両校の生徒が共に防災活動や防災学習に取り組みながら交流をすることが多くある。
------	---



	・今回の企画は、交流会の企画担当の生徒が、「毎回、荒浜中学校の校舎見学をしているので、より意味のある見学になるのではないか」と提案したものである。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	（１）交流会のプログラム（２時間） ①両校代表者からの挨拶 ②歌（お互いの校歌などを披露） ③チーム作り ④自己紹介アイスブレイキング ⑤校舎見学 ⑥防災ワークショップ（チーム活動・アイディア発表） ⑦記念撮影…→終了 （２）防災ワークショップの流れ ① チームづくり 10名弱の両校合同チームを作る ② 自己紹介（アイスブレイキング） 雰囲気づくりのために大事！ ③ 荒浜中学校の生徒の案内による校舎見学 どのチームもワイワイ盛り上がっていた。その後のワークショップに関わることから、楽しみながらもいつも以上に詳しく校舎内の間取りや工夫を確認していた。 ④ ワークショップ「避難所について考えよう」 《ディスカッションテーマ》 ①どのような人が、災害発生時に荒浜中学校にやって来るでしょう？ ②避難所として、どのように校舎を使ったらよいでしょう？誰をどこに割り当てるとよいでしょう？ ↓付箋にどんどん出てきた意見を書いて貼っていった。	



赤ちゃんとお母さんの
部屋を作ろう

赤ちゃんを連れた
父親だけが来たら
どうする？

ペットも連れて
来る人いるよね。

この辺りで多いのは、
犬や猫だけど、馬を飼
っている人もいますよ。

外国人も来るか
もしれない。

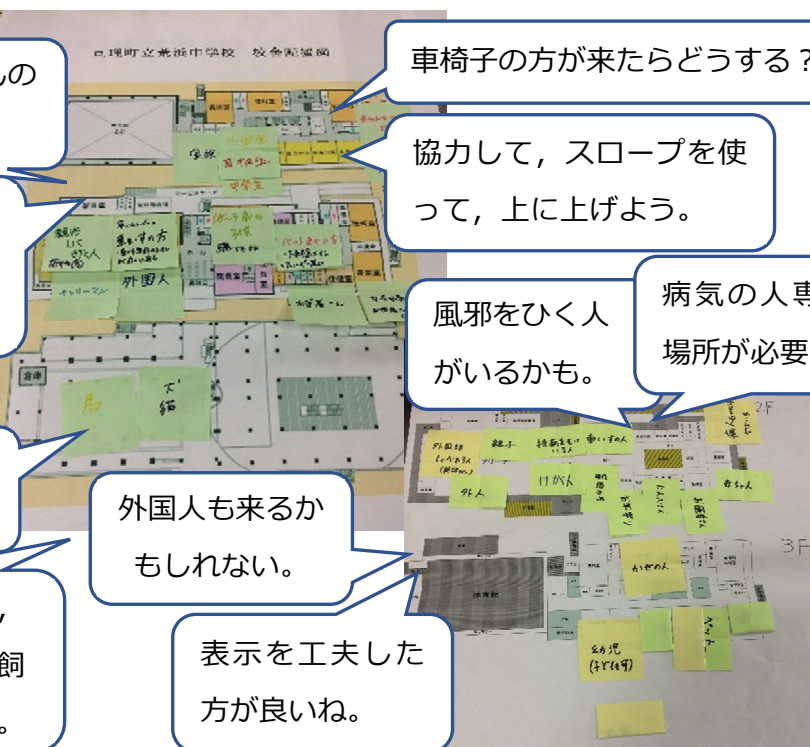
表示を工夫した
方が良さね。

車椅子の方が来たらどうする？

協力して、スロープを使
って、上に上げよう。

風邪をひく人
がいるかも。

病気の人専用の
場所が必要だね。



◎第一目的は、「想像力を伸ばす」こと（と仲良くなること）

この活動は「避難所について知ること・学ぶこと」を第一目的にしたものではなく、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力を活かして、災害や防災について考えることにポジティブな気持ちを持つ」ことを目的としている。

◎一緒に考える効果

荒浜中学校の生徒は、校舎の特徴や地域の特性を把握していることから、積極的に意見を出してくれた。本校生徒も、「母子避難所」について考える授業を中3の公民で経験していたことから、その経験を活かして、意見を出していた。⇒両校の生徒の経験とアイデアが融合して、活気あるワークショップとなった。

◎教員の立ち位置

教員は、「防災を教える」役割ではなく、生徒の意見を褒めたり、意見がなかなか出てこないチームにヒントを出したり、視点を広げたりする役割に徹する。



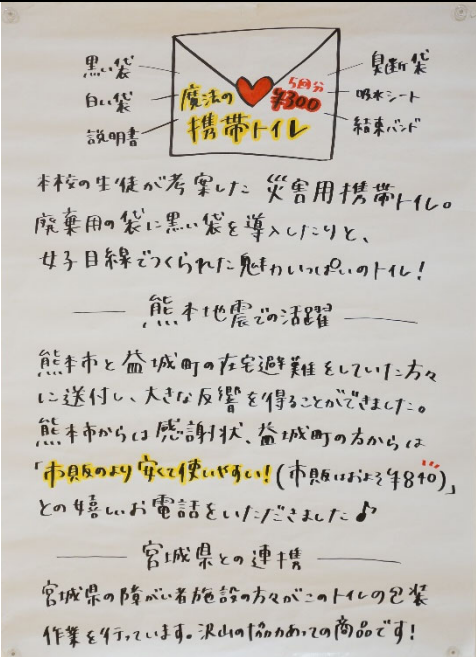
	⑤ アイディア発表会 —「一押しアイディア」を3つ発表しよう！ 自由に発表させると、単に出てきたアイディアを読み上げて、時間だけがかかる、というパターンに陥りがち。そこで、「一押しアイディア」を選んでもらい、絞って発表させる方法はおススメ。	
得られた成果	・企画担当の生徒の狙い通り、大いに盛り上がる交流会となった。 ・交流会の時間は、限られているため、今後の交流会の中で継続して取り組んでいくことを考えている。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫 苦労 工夫 工夫 課題	・「1 時間程度で盛り上がる内容」の設定を毎回、工夫している。テーマ設定が難しく、なかなか話が広がらなかったことも過去にはある。ただ、失敗も含めて経験なので、教員はアドバイスや提案をしつつ、できるだけ生徒のアイディアや思いを尊重する。また、最初のアイスブレイキングで雰囲気づくりをするのは、大事である。 ・教員はバックアップとサポートに徹して、全体への指示出しも含めて、できるだけ係の生徒に任せる。 ・ワークショップは盛り上がって伸びる傾向にあることから、短めに制限時間を伝えておいたり、終了させたい 10 分前から「話し合いを終わらせてください」と言い始めると丁度狙った時間に終わる、といったコツがある。このような指示の出し方を、係の生徒にアドバイスする。 ・本校は世田谷区と福祉避難所（母子）の協定を結んでいることから、地域住民の受け入れを前提とした「学校を会場に地域住民を広く集めて、避難所運営訓練をする」というのは、「防災対策」上、実施しづらい現状がある。一方で、「防災教育」としては、意義あることである。……と、教員がぐるぐる思い悩んでいたところに、生徒が今回の企画を提案してきた。目からウロコであった。	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	20 (他校との連携③)
タイトル	姉妹校に防災の輪を広げよう！ (姉妹校の文化祭での交流ツールとしての防災活動)
実践担当者のお名前	在田 (ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	3 万円未満 (携帯トイレ材料費・模造紙)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月 21 日～22 日
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	14 人:2 校計生徒(9)・教員(3)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・保護者・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県横浜市
実践を行った具体的な場所	サレジオ学院中学校高等学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	掲示用模造紙, 携帯トイレ

達成目標	【目的・目標】 他校（姉妹校）の文化祭に参加し、他校の生徒と協力して、防災活動の紹介や携帯トイレの普及を行う。防災をツールに、姉妹校との連携を深める。 【背景・経緯】 東京の女子中高生以外を対象とした防災教育の取り組みを、今年度の目標の 1 つにしていた。姉妹校から文化祭への参加の提案をいただき、本校からは、ボランティアグループ（アグネス会）メンバーを中心に高 2 の生徒が参加することになった。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法	・教室にブースを設営し、携帯トイレの販売やパネルディスカッションを行った。 ・携帯トイレは、文化祭用の5回分の特別パックで、手作り品の一環として販売した。携帯トイレは、障害者施設に作業をお願いして作成した。販売額の300円のうち、材料・制作費用を除いた収益は、寄付とした。 ・模造紙は、携帯トイレや被災地ボランティア研修の紹介のものを作成した。			
得られた成果	・第一目的は、両校の生徒の交流と連携であり、その際に防災が役立った。 ・姉妹校の家庭への携帯トイレの普及や防災の啓発ができた。(80個400回分) ・あくまで手作り品の位置づけであり、収益は大きくはないが、活動をすることで「障害者施設への仕事の提供」、「防災用品の普及」といったことに繋がるという意味で、「ソーシャルビジネス」的な経験ができた。			
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり		
	思考力・判断力・表現力	大いに		
	学びに向かう力・人間性	かなり		
課題・苦労・工夫	前の週に開催した本校の学園祭での展示を、活かした。他校にも展示するという責任感から、より良いものを作成しようとしていた。			



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	21 (他校との連携④)
タイトル	防災カルタづくりで地域(宮城)と地域(東京)をつなごう
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満 (カード印刷・ラミネート)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 4 月中旬～下旬 (及び 2019 年 3 月 25 日)
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人: 生徒(4)・教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	—
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 ラウンジ (カルタの作成は亘理町立荒浜中学校 体育館)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	画用紙, ペン, プロッキー, ラミネーターとフィルム

達成目標	【目的・目標】 学校近隣の法人格砧町自治会が作成した「砧防災標語あかさたな」に合わせた, カルタの絵札を完成させる。 【背景・経緯】 昨年度 3 月の荒浜中学校との交流会において, 両校の生徒が協力して, 防災カルタの絵札のデザインを描いた。	
どの力を身につけようと思いましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法	(2018 年度 3 月実施) 法人格砧町自治会の方を 3 名お招きして、自治会が取り組んでいる防災活動や標語を作成した思いについてお話を伺う。 ↓ 交流会企画担当の生徒が、カルタづくりの方法を考える。 《ルール》両校の生徒がペアになり、割り当てられた読み札にふさわしい絵札を描く。ただし、言葉を発してはいけない。一筆ずつ描いて交代して、絵を完成させていく。 ↓ 交流会当日に、両校の生徒混合のグループをつくり、絵札づくりに取り組む。生徒からルールの提案があったとき、教員はなかなかイメージが湧かなかったが、実際にやってみたところ、とても楽しそうに取り組んでいた。体育館に設置してある消火器を観察しに行くチームもあった。出来上がったカルタで遊び、盛り上がっていた。 ※昨年度の時点では、紙のままで絵札として完成できなかった。 ↓ ・欠けている絵札の補充や色が薄いイラストの手直しを行った。 ・スキャナーでイラストと読み札を取り込み、枠をつけた。 ・ラミネート加工して、絵札として完成させた。 ↓ 法人格砧町自治会に試作版をお届けした。今後、しっかりと完成させて、地域や荒浜中学校との交流会で活用していく予定である。
----------------	---





得られた成果 工夫	・活動の第一目的が生徒同士の交流であり，短時間（30 分程度）で即席で作成したイラストであったが，枠をつけてラミネート加工すると素敵な絵札になった。 ・『砦防災標語あかさたな』の絵札を作ってほしい」という地域の課題を生徒が引き受け，他校の生徒と力を合わせて解決するという良い経験ができた。また先方の先生からも良い標語がたくさんあるとおっしゃっていただいた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	荒浜中学校の生徒とは，作成したときに実際に使って盛り上がったが，まだ地域の方と使う機会がつかれていないので，今後，その機会をつくりたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	法人格砦町自治会
関係者の説明	「砦防災標語あかさたな」について http://www.houzinnkakukinuta.com/bousaihyogo%20.html ※団体については【実践番号 20】の「協力を求めた団体」参照。
関係者の連絡先	HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/index.html